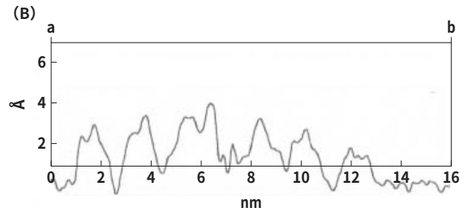
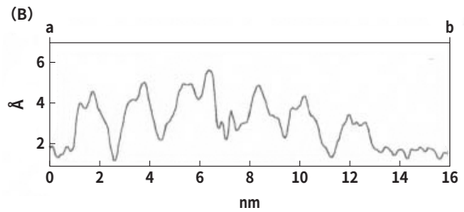
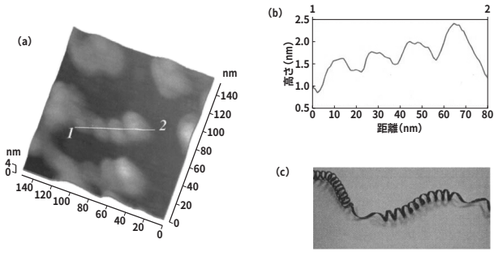
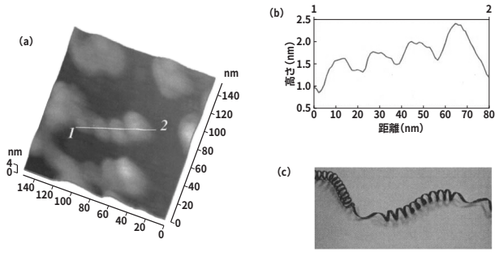
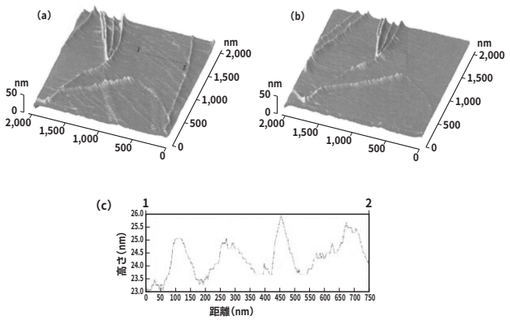
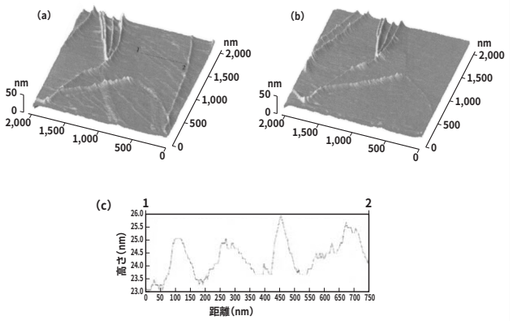
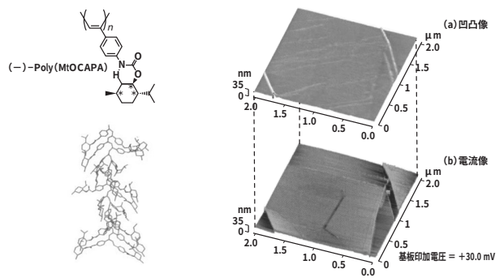
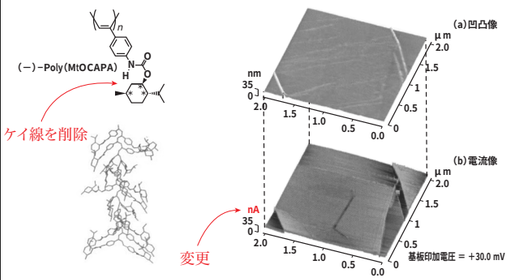
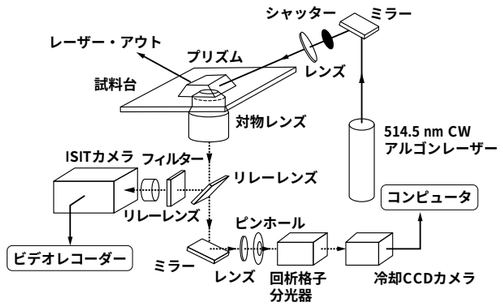
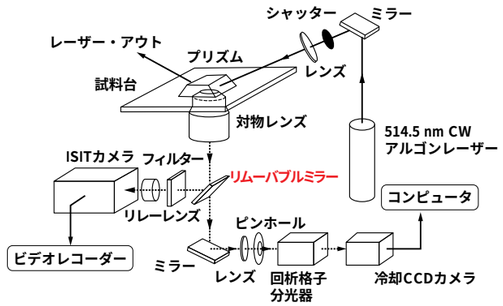
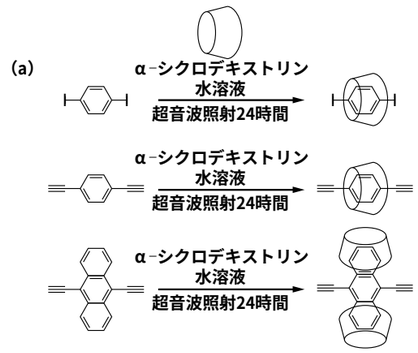
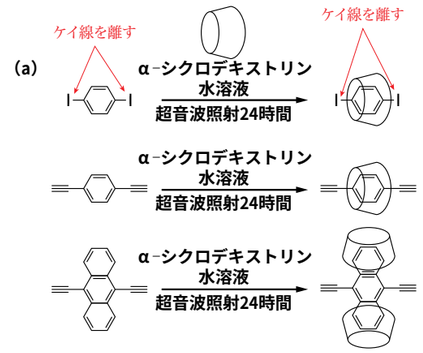
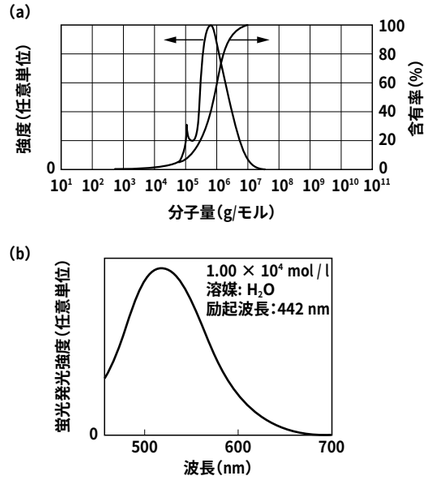
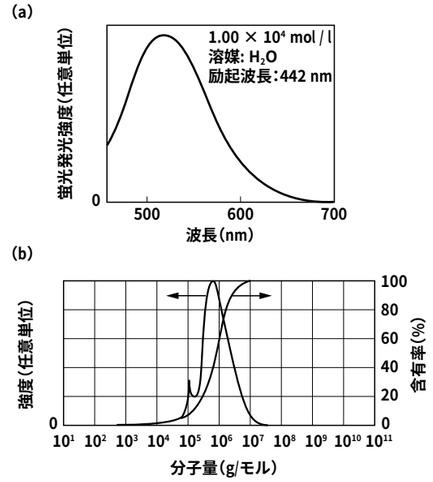
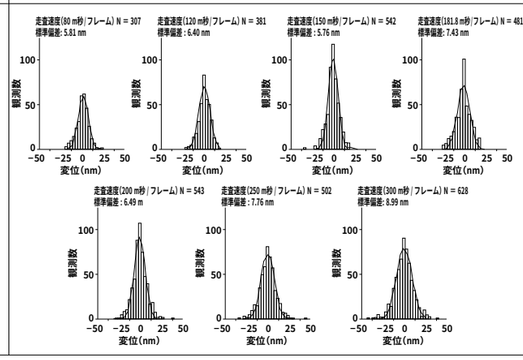
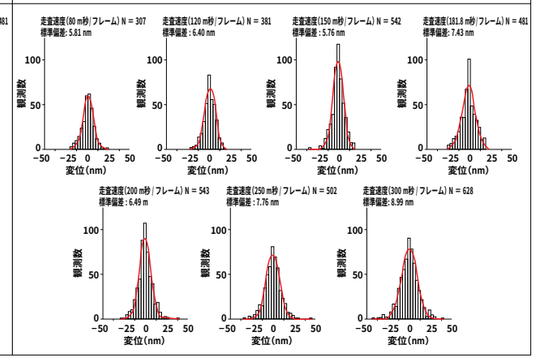
「高分子鎖1本のサイエンス［みる・はかる］」正誤表

下記に誤りがございましたことをお詫び申し上げます。　㈱エヌ・ティー・エス

箇所	誤	正
講師プロフィール 第1講　篠原健一 1行目　右	1996年4月～99年3月、(独)日本学術振興会特別研究員 (新潟大学)。	1996年4月～97年3月、(独)日本学術振興会特別研究員 (新潟大学)。
p.7 図5 (B) グラフの位置 図5キャプションの出典	 図5　(A)図4の拡大像、(B)a～b間のクロスセクション [2] 出典：図4、5ともK. Shinohara, S. yasuda, G. kato, M. Fujita, and H. Shigekawa, *J. Am. Chem. Soc.* **123**, 3619(2001).	 図5　(A)図4の拡大像、(B)a～b間のクロスセクション [2] 出典：図4、5ともK. Shinohara, S. Yasuda, G. Kato, M. Fujita, and H. Shigekawa, *J. Am. Chem. Soc.* **123**, 3619(2001).
p.11 図9 (a)(b)(c)の脚注を削除	 (a)1回目のスキャンによるコンタクトAFM像　(b)2回目のスキャンによるコンタクトAFM像 (c)(a)の1−2のクロスセクション 図9　一本鎖の粗密構造と長周期性 [3]	 図9　一本鎖の粗密構造と長周期性 [3]
p.11　本文 下から3行目	図10 (a)、(b) 同様グラファイト～	図10 (a) 同様グラファイト～
p.12 図10 (a)(b)(c)の脚注を追加	 図10　グラファイト基板表面でのπ共役高分子一本鎖 [3] 出典：図8、9、10とも K. Shinohara, T. Kitami, and K. Nakamae, *J. Polym. Sci. Part A:Ploym. Chem.* **42**, 3930 (2004).	 (a)1回目のスキャンによるコンタクトAFM像　(b)2回目のスキャンによるコンタクトAFM像 (c)(a)の1−2のクロスセクション 図10　グラファイト基板表面でのπ共役高分子一本鎖 [3] 出典：図8、9、10とも K. Shinohara, T. Kitami, and K. Nakamae, *J. Polym. Sci. Part A:Ploym. Chem.* **42**, 3930 (2004).
p.12　図11	 	
p.15　本文8行目	図12 (c) のように、～	図13下のように、～

箇所	誤	正
p.16　図14	 	
p.21　図20 (a)	 	
p.21　本文5行目	**図22** (a) 上が蛍光像、下がAFM像です。～	**図22** (a) が蛍光像、(b) がAFM像です。～
p.22 図21 (a)と(b)を入れ替え	 	
p.27 図28の分布曲線を変更